

2農産第1205号
令和2年8月25日

各関係機関、団体長 様

愛媛県農林水産部長

発生予察情報の送付について

病害虫発生予察警報（第1号）を下記のとおり発表したもので送付いたします。

令和2年度 病害虫発生予察警報（第1号）

令和2年8月25日
愛媛県

病害虫名 トビイロウンカ
作物 水稲（普通期栽培）

- 1 発生地域 県下全域
- 2 発生程度 多
- 3 警報発表の根拠

- (1) 8月上中旬の定点調査の結果、発生圃場率は68.4%（平年の約6.2倍）、10株当たりの成・幼虫数も3.4頭（平年の11.3倍）と非常に高くなっている（表1）。
- (2) 7月下旬から8月中旬にかけて、県下の普通期栽培を中心に広域調査した結果、発生圃場率22.6%（平年の32.3倍）、10株当たりの成・幼虫数12.67頭（平年の30.2倍）、短翅雌成虫の発生圃場率13.1%（平年の43.7倍）と、極めて高くなっている。なお、地域別では東・中予に比べ南予の発生密度が高い状況である（表2）。
- (3) 広域調査における発生圃場率は過去10年間で最も高く、多発した昨年と比較しても約14倍と極めて高くなっている（図1）。
- (4) 注意報（令和2年8月6日）発出後も発生密度は高まり、7月期と8月期の調査結果を比較すると、発生圃場率では約5倍、10株当たりの成・幼虫数は約37倍と急激に増加している（図2）。
- (5) 高松地方気象台発表（8月20日）の1か月予報では、気温は高いとされており本虫の増殖に好適である。

4 防除上の注意

- (1) 本虫は、株元で局所的に世代を繰り返し、急速に密度を高めて坪枯れ被害を引き起こす（写真1）。また、圃場間・圃場内で発生に偏りがあることに留意し、発生状況を把握して早期発見に努める。
- (2) 出穂期防除及び仕上げ防除（出穂10～15日後）は必ず実施する。その後も株元に本虫が確認され、坪状に黄化症状を呈する箇所（写真2）は坪枯れとなる可能性が高いため、追加防除を実施する。
- (3) 感受性低下が報告されているイミダクロプリド剤やチアメトキサム剤、クロチアニジン剤を移植時に使用している圃場では、発生密度が高い可能性があるため、特に圃場観察をこまめに行う。
- (4) 本虫が生息する稲の株元に薬剤が十分届くよう丁寧に散布する。
- (5) 坪枯れ被害の発生圃場では、可能な限り収穫を早めて被害の拡大を防ぐ。
- (6) 薬剤は県防除指針（表3）を参照し、適用作物、使用回数、使用時期、使用量、使用方法等の使用基準を遵守する。また、風向き等に注意し周辺作物への飛散防止を念頭に置き、周辺環境（ミツバチ等）へ配慮する。

表1 定点調査におけるトビイロウンカの発生状況

	発生圃場率(%)	成・幼虫数/10株
本年	68.4	3.4
(参考)R1	61.1	2.2
平年	11.1	0.3

1) 平年値: H22~R1の10年平均

2) 調査は普通期を対象に、8月上中旬に実施

表2 広域調査におけるトビイロウンカの発生状況(令和2年)

地域	調査圃場数	発生圃場数	発生圃場率(%)	成・幼虫数/10株	短翅雌成虫発生圃場率(%)
東予	194	48	24.7	4.54	12.9
中予	229	37	16.2	6.31	10.5
南予	50	22	44.0	27.17	26.0
県全体	473	107	22.6	12.67	13.1
(参考)R1	430	7	1.6	3.89	1.4
平年	341.4	2.4	0.7	0.42	0.3

1) 平年値: H22~R1の10年平均

2) 調査は7月下旬から8月中旬に実施

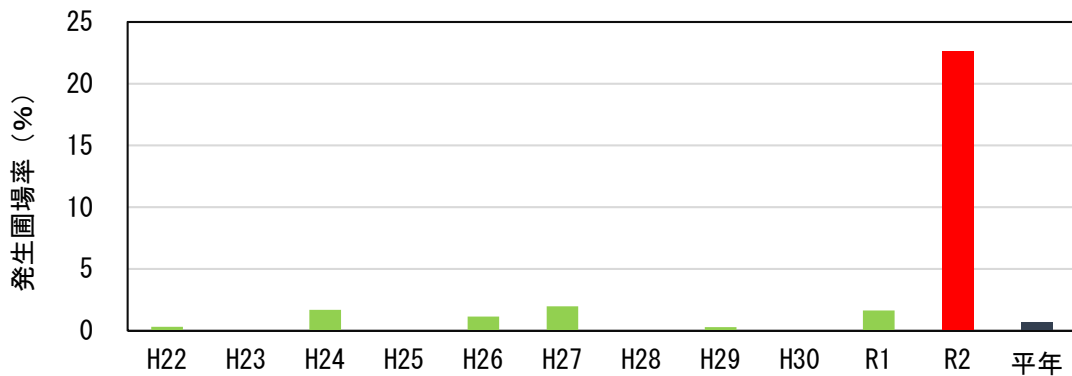


図1 広域調査におけるトビイロウンカの発生圃場率の年次比較 (7月下旬~8月中旬)

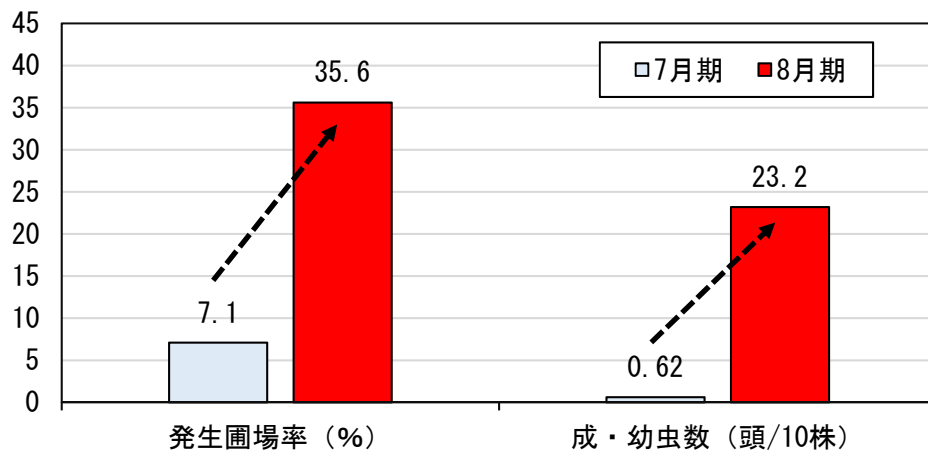


図2 令和2年度の広域調査におけるトビイロウンカの発生推移 (全県)

※7月期: 7月7日~31日調査、8月期: 8月7日~21日調査

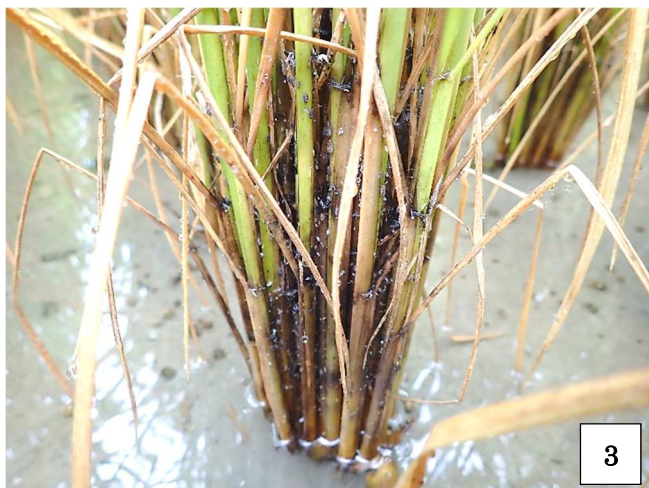


写真 トビイロウンカ

(1: 坪枯れ 2: 黄化症状 3, 4: 株元に寄生する成幼虫 (2019年9月撮影))

表3 トビイロウンカに対する防除薬剤(県防除指針より抜粋)

農薬名 (商品名)	成分名	剤型			希釈倍率	使用時期	散布量 (10a当たり)	使用回数
		粉剤	液剤	粒剤				
トレボン	エトフェンプロックス	○			-	収穫7日前まで	3~4kg	3回以内
			○(乳剤) ○(EW)		1000~2000倍 1000倍	収穫14日前まで	60~150L	
スタークル	ジノテフラン	○			-	収穫7日前まで	3kg	3回以内
			○(液剤) ○(顆粒水溶剤)		1000倍 3000倍		60~150L	
				○	-		3kg	
				○(豆つぶ)	-		250~500g	
アルバリン	ジノテフラン	○			-	収穫7日前まで	3kg	3回以内
			○		3000倍		60~150L	
MR. ジョーカー	シラフルオフエン	○			-	収穫7日前まで	3~4kg	2回以内
			○(EW)		2000倍	収穫14日前まで	60~150L	
アプロード	ブプロフェジン			○	-	収穫7日前まで	3~4kg	4回以内
			○(水和剤)		1000~2000倍		60~150L	
エクシード	スルホキサフロル	○			-	収穫7日前まで	3kg	3回以内
			○(フロアブル)		2000倍		60~150L	

(注) 粒剤は湛水状態(水深3~5cm)で田面に均一に散布し、散布後4~5日間は止水する。

(注) アプロード剤は、成虫に対する効果がないので成虫に対しては他剤との混用で使用する。